

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL. (0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋謙 加瀬由紀子
室賀清輝 近藤マリ子 高橋利春 近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



2月なのにまったく雪のない信濃川と長生橋

ご家族の皆さままでご覧ください

永遠の命

翠巖龍弘

NHKの番組クローズアップ現代で「千の風になって」の放送がありました。作詞不詳、訳詞・作曲は新井満さんで、次のような詞でした。

『私のお墓の前で 泣かないでください。そこに私はいません。眠ってなんかいいません。千の風に 千の風になって。あの大きな空を吹き渡っています。秋には光になって 畑にふりそそぐ。冬はダイヤのようになり。きらめく雪になる。朝は鳥になって。あなたを目覚めさせる。夜は星になって。あなたを見守る。私のお墓の前で 泣かないでください。そこに私はいません。死んでなんかいいません。千の風に 千の風になって。あの大きな空を吹き渡っています(以下繰り返し)』

殺伐とした事件が毎日の

ようにある今日の日本で、この詞によって愛する人を失った多くの方々が、故人がいつも近くで見守ってくれると感じられ、淋しく悲しみの中にも生きる希望・力を与えられたそうです。

新井満さんはこの詞に出合っ、生死感が大きく変わり、亡くなられた人は手の届かないどこか遠くに行っただけではなく、風や光などになっ、いつも近くで見守ってくれる、懸命に生きることが故人も一緒にいることとで一番の供養になることだと言われておりました。

放送を見ながら、長野市の藤本幸邦老師の法話を思い出しました。その内容は、『生まれてから死を差し引いたら何が残るでしょう。生きていくこの世の幸福を失ってしまえば、何もかもなくなってしまう不幸な死が待っていると思うと、死

ぬことがほんとうにおそろしくなります。私たちは死んでどこへ行くのでしょうか。お墓の下でしょうか。いいえ、それは私たちの肉体です。いわゆるなきがらです。私たちのほんとうの命は、愛するもののなかに生きていくのです。愛とまことは、この肉体は死んでも永遠の命となって滅びません。芸術を愛した人の命は芸術のなかに、教育を愛した人の命は教育のなかに、その友達を、そのいとこを、親を、妻を、夫を、子孫を、みなさんが愛したその愛するもののなかに私たちの命は永遠に生きていくのです。…以下略』です。藤本老師の法話も、「千の風になって」の詞も同じように感じられます。今回は詞や法話の紹介で終わりましたが、深く味わっていただきたいと思います。

【大本山總持寺 雲水日記】最終回 總持寺での修行の日々を糧として

近藤真弘

ちょうど皆さんのお手元にこの新聞が届く頃、時期を同じして遡ること六年前の三月九日に私は大本山總持寺の門をくぐりました。

何もわからず抱くものはこれから始まる修行生活の不安だけ。よく覚えているのは寒空の中、同じ日に上山した九名の修行僧と緊張の中



總持寺の山門

くぐった總持寺の山門です。上山の日、支度を整えた私たち九人は参道を進み、鉄筋では日本で一番大きい總持寺山門の前に着きました。そこで先輩の修行僧に言われました「この門をくぐったらそこは娑婆の世界と離れた修行の場であり、もう後に戻ることはいけません」と。このとき目の前に立ちのぼった大きな山門は私にとっても大きな畏怖をあたえ、なんともいえない不安を感じさせるものでした。覚悟を決めて門をくぐってから六年。今号に案内があるとおり四月二十六日で總持寺を送行(そのお寺での修行を終ること)させていただくことになりました。六年間この「修行日記」でも紹介させてもらいましたが本当にいろいろなことがありました。何もわからずに修行生活

に入った私でしたが、今では修行僧を指導する責任者のな配役をいただくまでになりました。私一人がまだ修行したいと言って、六年もの長い時間修行させていただくことはできません。そこには安善寺の檀信徒皆様の理解や他にも多くの方々の助けがあったからこそです。百人以上の同じ志を持ったものが寝食を共にする、まさに同じ釜の飯を食べる。そんな生活を何年も続けるというのはなかなか経験できることではありません。はじめはここでの生活が不安でいっぱいでしたが、何時のころからかここでの修行を終えて帰ることに不安を感じるようになりました。具体的に送行の日取りが決まった最近はその気持ちが強くなっているのも事実です。そんなときにふと先輩の修行僧が言っていた山門の



總持寺参道

話を思い出しました。「この門をくぐったらそこは娑婆の世界と離れた修行の場でありもう後に戻ることはいけません。しかし修行を終えて帰るときにはこの大きな門がとても頼もしいものに見える」と。

あのとき六年前に暗く冷たく感じた山門は今ではそのとき以上に大きく、何も心配はないと背中を押してくれるような頼もしいものになりました。来月の二十六日でこの修行は終わります。しかし場所を変えてもまだまだ修行は続きます。總持寺で修行してきたと自信を持って、それを今後の更なる精進につなげて行きたいと思えます。六年間の修行期間中にかかわったすべての方に感謝いたします。 合掌

故安藤一夫さんの思い出

文化人・安藤一夫

株式会社アサヒ代表取締役社長 伊藤英典

皆様の記憶に確かに残っておられると思いますが、故安藤一夫さんは株式会社アサヒの社長でありながら、超多忙な時間の中、安善寺様の季刊誌創設グループに参加され、中心的存在であったと伺っています。現在は何の疑いもなく自然にお寺、ご住職、檀家の皆様の情報が定期的に届けられるようになっておりますが、季刊紙発行・継続には大変なご苦労があったことと推察いたします。

せられてしまいました。場違いな乱文になると思いますが、安藤一夫さんを偲びつつ、彼の逸話もお話できる範囲ではさみながら、賢人安藤一夫を思い出していたらどうと思います。

安藤一夫さんとの最初の出会いは昭和五十二年（いまから三十年前）にさかのぼります。当時私は美容室専売の化粧品会社の社員でしたが、その取り扱いブランドが買収され、新たなブランドを立ち上げたばかりで新潟地区の代理店を探しておりました。その当時大変お世話になっておりました高名な美容女史大家に安藤さんを紹介していただきお付き合いが始まりました。

当初は商売はそつちのけで、その女史とガキ大将の会を結成し、日本全国のお祭りや台湾・韓国の文化交流を一年に三、四度企画しており、安藤さんは出席率が大変よく、いつもカメラをぶ

ら下げて記録・広報的役割をし、いつもニコニコと我々年下の仲間の暴走を面倒見ていただきました。

お取引が進む中で、私の取り扱いブランドがヨーロッパからアメリカに移ると、ヘアデザインからヘアビジュネスへの転化を見事にとりいれ、新潟県内言うに及ばず富山―長野―大宮―東京と伝道師のごとくご自分の得意先に自ら出向き、経営者から若いスタッフまでサロンマーケティングを指導していただきました。まさにそれは、販売人ではなく教師のような振舞い・活動で、今も各サロンからその当時のことを聞かされるが多々あります。

ご病気が発見される前、体調が思わしくないとき、時々、会社の後継者の相談を受けておりましたが、二〇〇一年末に安藤さんがメーカで一番信用なさっている田尾さんが僕を訪ねて

安藤さんがお亡くなりになり、編集会議にお呼ばれた時の事。安善寺の奥様に美味しい料理をご馳走になり、お酒も進むうちに「伊藤社長も原稿を書いてください」と、ご住職はじめ全員のメンバーに言われ、最初は冗談だと思ってお断りしていましたが、断れる雰囲気ではなく、五年たったら原稿を書かせていただきますとお約束さ

ら下げて記録・広報的役割をし、いつもニコニコと我々年下の仲間の暴走を面倒見ていただきました。

お取引が進む中で、私の取り扱いブランドがヨーロッパからアメリカに移ると、ヘアデザインからヘアビジュネスへの転化を見事にとりいれ、新潟県内言うに及ばず富山―長野―大宮―東京と伝道師のごとくご自分の得意先に自ら出向き、経営者から若いスタッフまでサロンマーケティングを指導していただきました。まさにそれは、販売人ではなく教師のような振舞い・活動で、今も各サロンからその当時のことを聞かされるが多々あります。

ご病気が発見される前、体調が思わしくないとき、時々、会社の後継者の相談を受けておりましたが、二〇〇一年末に安藤さんがメーカで一番信用なさっている田尾さんが僕を訪ねて

来られ「安藤さんもあと一年しか持たない、君に後継者になってほしい」と突然言われ、今回の新聞に寄稿すると同様に、門外漢がこんな事ができるのかなと年末・年始は大いに悩み、お引き受けするべきか・お断りすべきかの判断は安藤さんにお会いするまではできませんでした。

年が明け、安藤さん宅に訪問した時、満面の笑みで迎えていただいた際は大変元気な様子で、私が決心を伝えると大変喜ばれ、ご自慢のステイキディナーをつくっていただきました。その後たびたび、ご自宅で夕食をご馳走になりましたが、だんだん味が濃くなり、失敗作も多く、これはちょっとと思うものもしばしばありました。味覚が病魔と共に進行し、美食家を自負しておられた方にとって我慢できないことではなかったでしょうか…。

仕事の引継ぎは二ヶ月あまりで、酸素ボンベを背中に背負って東京にも出て来られ、熱心に美容室を紹介してくださいました。また、ライフワークのホームページ作成には毎日毎日よく続けなと思うほどご自分の知識・見識を残すことに努力され、最後は病室までコンピュータを持ち込んでメッセージを送り続けていらつしました。

お亡くなりになった後、ご自宅の書斎に山と詰まれた本とCDを拝見し、絶えず情報・教養を吸収し、社員・業界に伝え、少しでも美容界に携わる人々が良くなると願っておられたと感じ入りました。

しかしながら、発病後の会社運営はヘアカラーブームに乗り遅れ、社長の顔が見えない社員の動揺は競合に打ち勝つことはできず、衰退しておりました。

二〇〇二年三月二十一日安藤さんが会長になられ、私が社長に就任し、銀行に挨拶に出向いた際の銀行員の態度は、私のこの事業に対する

起爆剤となっており、社長就任初年度のテーマを「笑顔は力」と掲げさせていただいたのも、社内外の状況、将来への活力を取り戻すために、社員一同笑顔で前進して行こうと自分自身に言い聞かせるためでもありました。

その後の安藤さんは見る見る衰弱し、あつという間もなく三ヶ月弱でお亡くなりになりました。少しばかり彼の死期は計算外だと思いますが、最後の夜、退院し自宅に帰られ、本当に親しく身内のように付き合っている数名の方々に「福美の寿司でも取って食べてくれ」と最後まで気遣いをされ、みんなで乾杯の際、片手をかっこよく上げて挨拶してくれたのを今でもしばしば思い出します。

私も安藤さんから引き継いだ事業を全うし、「ジャーね」って感じで親しい仲間に見取られて去っていきたいと思います。但し、安藤さんのような病氣への戦いをせぬままに…。

合掌

読者からの便り

亥年を占う

長岡市福島町●小林千代次
 鯉を見て推測、今年は暖冬と日報の窓に書かれたお方があった。今のところその通りであり、はや大寒も過ぎ睦月も終わりに近づいている。

一週間くらい前に信州戸隠神社種非が配られた。一月雨多シ、二月上半晴、三月雨風、四月小雨、五月雨、六月中旬より雨湿、七月大雨出水、八月雨多シ、九月風雨アリ、十月日和ヨシ。十月に入つてやつとの思いで日和に恵まれる。地球温暖化と云えども今年の猪は進み具合がおかしい。禍がなければ良いが、一九九五年(平成七年)、早朝の阪神淡路の大震災、地下鉄サリン事件や、地域においては集中豪雨で猿橋川の破堤など、大変な一年であった。

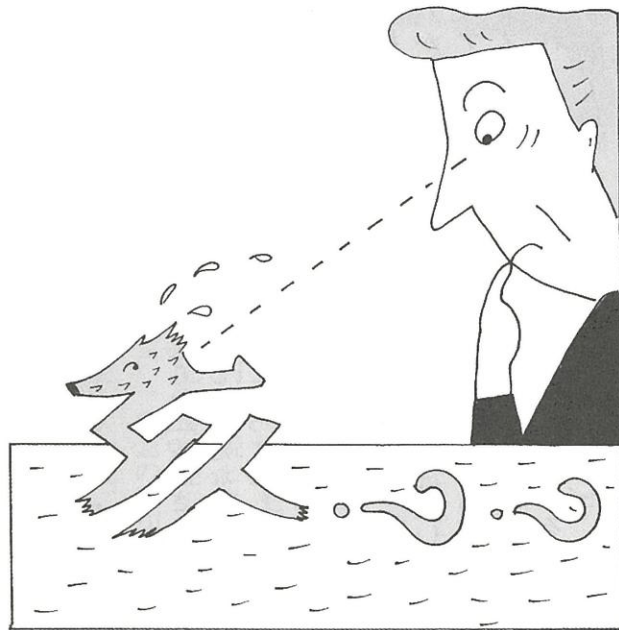
二〇〇四年(平成十六年)の七・二三水害は今昔幾多

の人達も経験がないと思われる大水害であった。十月二十三日は忘れることの出来ない中越地震が起き、復興のため全国の皆さんの支援や励ましと、行政の方々や被災者の皆さんの努力で心一つ二つと復興の合い言葉となり今日に至りました。



不幸なことばかり思案しても始まりません。今年も無病息災を祈り、賽の神の神行事が行われました。小雪の散らつく中、若い人達が青竹を立て穂先を杉の枝でとんぼちを飾り、茅を巻き、下からトバを掛け藁を巻く。入口にメ縄を張り、大根の御神体を飾る。そこに御供物と御灯明を上げる

と準備が出来上がり。夕刻五時半に火がつけられる。昨年の正月飾りやメ縄子供達の書き初めなどまとめて焼く。豊作を祈願し、無事息災にあやかろうと人々は続々詰めかける。餅やすめを焼いて食べるとこの一年風邪をひかないとか、書き初めは燃やして高く舞い上がるほど上達するとか、いろいろ言い伝えがある。火が消えかけると人々は今年こそ良い年であつてほしいと祈りつつ八幡神社にお参りし、家路へと急ぐ。



ありがとう
 長岡市花園東●高橋とも子
 母が八十三歳で昨年の八月二日、長岡花火の三尺玉終了後に亡くなりました。十年程前、思いもよらない行動、言動に気づき、お医者様に受診したところ「アルツハイマー」と診断され、ゆつくりと病氣と戦ってきました。

三年程前に完全に寝たきりとなり、食事も通らなくなり、何も話す事もなく目を赤ちゃんのように空けて私を見つめていました。で

も、母がこの世に居てくれる事が私の支えでした。人間の力はすごいとしみじみ思います。でも、母にも終わりが近づいてきました。七月中旬に血圧が六十に下がってきて、お医者様に覚悟を言い渡されました。「母には死が来ない」と思っていた私は、病院に通つて手を握り、別れを惜しみました。

八月二日の最後の花火の音が終わると、今まで眠っていた母が少し苦しみ出し、息が荒くなり、目をパッチリ空けて私の事をジッと見つめています。私は母の手を握り「ありがとう。ありがとう」と「頑張れ、



「頑張れ」と呼びかけながら、母と目を見つめ合いました。ついに力尽き母はこの世を終わりました。

永い永い闘病生活でケアハウス、グループホーム、老健施設など兄弟のいない私は、皆様にお手伝いしていただき、助けられ、口では表せない程感謝しております。母はアイバンクに登録していましたので、角膜を提供させていただきました。どなたかの人生を少しでもお役に立っていると思います。

これからは、母が私を見守ってくれると思い、母の分も有意義に生きて行きたいと思っております。

団塊世代の定年

新潟市秋葉区 ● 中野健一

長岡市で起業した会社に拾っていただいて三十九年が経ち、いよいよ定年の日が迫ってきました。

人生六十三年を振り返ると、私を育てて下さった人と別れです。祖祖母、祖母、両親、そして義兄との永遠の別れの際には、もう少しこうしてあげればよかった、といつも後悔ばかりです。

私は六十歳を前後して家内と旅行を楽しむことになりました。積立金が満期になるのを待ってハワイ、バンコ

ク、アメリカ、沖縄、そして北海道と、四日から十日間の旅行をしてきました。

家内だけは満足してもらえようと計画してきましたが、なかなか満足をしてくれません。理由は一つ、「ケケケチ予算」。少しでも安い時期に合わせて行くのですから…。でも最近慣れたせいか、結構楽しんでくれています。旅行中の言い争いも少なくなりました。

今年退職記念に北米の滝を見に行く予定です。結婚式も新婚旅行も我慢して連れ添ってくれた家内への



感謝の気持ちを含めた旅行にするつもりです。

最近しばらく途絶えていた朝の読経を始めました。初日の出を見るために秋葉山に行きました。仏舍利塔を守っているお寺の住職が早朝から念仏を唱え、太陽が昇ってくるのとさらに大きな声で読経していました。



家に戻り、仏壇にお参りすると、一年間も香炉灰の清掃をしないのでお線香が立ちにくくなっていました。改めて香炉を清め、お参りをしました。さまざまなき様の中で後悔のないこれからを過ごして生きたいと考えているこのごろです。

副住職本山送行記念 大本山總持寺参拝の旅



平成13年3月より本山に上山いたしました真弘副住職が6年の修行を無事終了し、安善寺に帰山することとなりました。つきましては、副住職が本山に居る最後の機会に檀信徒の皆様へ先祖代々の供養を兼ねた団参を計画いたしました。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆期日 平成19年4月25日(水)～26日(木)
- ◆旅費 長岡より参加の場合 25,000 円
本山のみ参加の場合 15,000 円
※旅費の中に本山での上膳、先祖代々の供養料を含みます。
- ◆締切 平成19年4月10日

山陰・山陽の旅

安善寺親睦旅行として山陰・山陽の旅を計画。皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆期日 平成19年5月29日(火)～31日(木)
- ◆旅費 77,000 円
- ◆締切 平成19年3月末日 申込金10,000 円(旅費充当)

お別れ

(平成十八年末～十九年三月二日)
姉崎カツ様 十二月廿四日寂

小千谷市

中澤一郎様 十二月廿七日寂

東京都杉並区

水沢イツ様 一月十四日寂

長岡市中島

鈴木君子様 一月三十一日寂

長岡市新組

石黒 肇様 二月五日寂

長岡市福住

笠井信次様 三月二日寂

長岡市三ツ郷屋

ご冥福をお祈り申し上げます。



生活者がチャレンジする循環型社会づくり 「食・農・資源の循環」が人の環境へ

特定非営利活動法人 地域循環ネットワーク 理事長 金子 博

一、持続可能な循環型社会の仕組みづくりと背景
地域循環ネットワークは「ごみから資源へ」をキーワードに資源を再生利用することで持続可能な循環型社会の仕組みづくりと実践活動を展開しています。

給食調理残さ再生利用、エコグリーンクラブ、てんぷら廃食油再生利用、里道・里山整備、かぎの炭焼工房、わりばしリサイクルなど9つの事業が行われています。

二、「食」を通して命の連鎖を知る

現代の私たちは、加工食品・半加工食品を食卓に乗せることで「生き物を食して人間は生かされている」ということが見えなくなってきました。美味しいお米、野菜、果物、肉も魚も卵もカニもエビもホタテも、みんな生きているものを、生で・煮

て・炒めて・揚げて・焼いて・燻製にして・すりつぶして、発酵させて食しています。「食」を通して、様々な命の循環・連鎖が営まれているのです。

三、学校給食調理残さ再生利用活動の紹介
長岡市内99箇所の保育園や小・中学校などから給食の調理残さ(野菜くずや食べ残し)年間二八七トンを回収



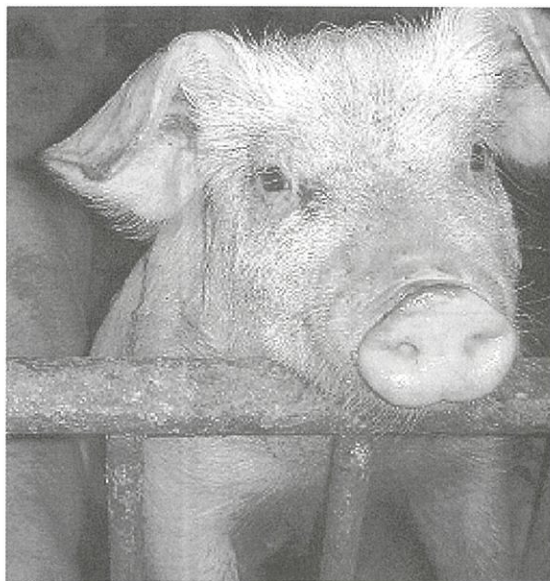
園児たちが楽しく食事をしています

し、畜産農家で飼料として利用しており、一部の学校では給食材として豚肉が学校・保育園に戻っています。食育という観点からも、大変意義深い位置づけをして活動が展開されています。

四、活動の特徴と事業効果は一石五鳥

給食調理残さ再生利用事業による具体的な事業効果を述べますと、

- ①焼却・埋め立て処分ごみの削減
家畜飼料として再生利用されることで、環境負荷・ごみ処理経費が軽減されます。そのことにより「回収・焼却・埋立」の経費一四八万円の節税となります。
- ②環境啓発や「もったいない」理念の周知
児童・生徒二万二千人が循環の環に関わることで「環境教育、食育」となって



豚さんが「ご飯」を待っています

③飼料自給率の向上
学校給食の食材を飼料材とすることで安心・安全の飼料確保が実現でき、食肉生産、食糧自給率の向上に直結しています。

④市民活動・市民力の向上
年間延べ二千二百名のボランティアが参加し、市民活動の場として展開され「貢献できて良かった」という良好な循環が形成されています。

⑤資源の循環が人の循環へ
畜産農家(生産者)と家庭へ
学校(生ごみ排出者)であり食肉の消費者)の循環のしくみは、「資源」と「人」の循環を構築しています。

五、今後の課題

このような活動にも課題があります。10市町村で合併した新長岡市での全量回収体制の確立と20代〜30代の若いスタッフの生活を支える賃金のことです。沢山の人の善意のボランティアだけでは事務局は運営できません。財政の確立を図り若いスタッフを支えていくことが大きな課題です。

誰がそういったか、をたずねないで、いわれていることは何か、に心を用いなさい。

—トマス・ア・ケンピス「キリストにならいて」—

旬歌 愁灯

[その十一]

帰り来ぬ青春

加瀬由紀子

「ラ・ボエーム最終章、シヤルル・アズナブルありがとうさようなら、日本公演」と長つたらしく銘打ったチケットを購入したのは昨年の秋だった。シャンソン界の大御所、最後の日本公演というふれこみが少々クサイ（最後の閉店売り出しなどというチラシを、毎月繰り返す紳士服や靴の量販店もあるので）が、おん歳八十二歳、十六年ぶりの来日、さもありなんと、娘と二人分申し込む。

かくして建国記念日は、日の丸ではなくトリコロールカラーのフランス国旗のもとに過ごすことになった。有楽町駅を東京国際フオーラムへと急ぐ。チケット会社いわく「早

くよく見渡せば、さらにそのはるか奥まで、そして二階までもまだまだ席が延々とある。

会場案内の係に問えば、

「五千十二名収容ですからお客様のお席は前列に属します」とそつけない。我が娘はおぞましくも計算を始め、五千人×チケット代二万円は一億円だ、三回公演で三億円！ 儲けてるなあ、としきりにぼやく。声が大き

い、と周りをはばかれれば、お、あちらもこちらも団塊の世代やその上の熟年の世代、それも女性が殆どを占めている。公演は名古屋、大阪、福岡と回るそうで名古屋会場はチケットが抽選になつたという話だ。確かにセコい！ 儲かるなあ…。

やがてブザーが鳴り、場内が暗くなり、照明に一人のフランス人が浮かび上がる。「あのさえないおじいちゃんか…」我が娘の口をふさ

ぎ、遠い舞台を見つめる。二人のギター、ピアノ、ベース、キーボード、サククス、ドラムス、そして弦楽四重奏、コーラス隊と総勢十四名の大編成バンドを従える。こんなに大勢いらぬはず、ギャラがムダだ、と計算してしまふのは、悲しい親子の宿命なのか…。

気を取り直してシャンソンを聴く。シャンソンは三分間の芝居、とよく言われている。歌の中に、物語や詩が展開するのが私は好きだ。それにひきかえ、日本の演歌はどうだろう「馬鹿な女…」

「弱い女…」女のすべてをあなたにあげる… 大売出しじゃないんだ、いい加減にせい！ 強弱やアホさに男女の差別なぞない！ このよう

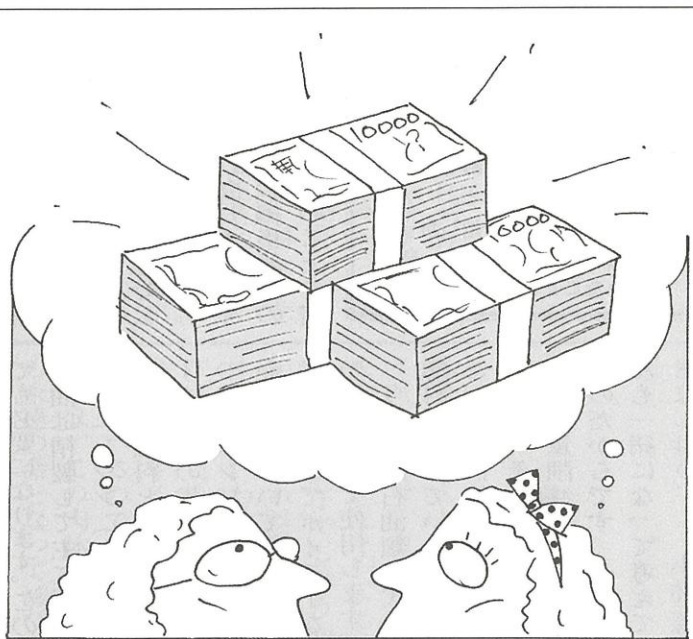
なジェンダー無視の視点があの厚労大臣の「生む機械」発言を生むのだ！ 友人のいるデンマークでは、弁護士、医師、大学教授など知的職

業には圧倒的に女性が多い。「だって男は力仕事に向いているでしょ」コペンハーゲン市の児童課長はむしろ男性蔑視発言をのたまうくらいなのに、と怒るのは私だけではないはずだ。シャンソンに戻ろう。ピアノもモンタンも今はなくアズナブルこそ最後の巨人と言われているのだが、八

十二歳の歌声は艶があり、おまけに背筋はぴんと伸びて、エネルギーッシュなアクションに「ブーッ」の声しきり。ここはパリか…

「朝が訪れ 夜が迫り やがて消えゆく 一日のうちに 恋ははかなく 短い命…」

「恋は一日のように」「コメデアン」「アヴェ・マリア」「忘れじの面影」と二十曲、黒いシャツスタイル、美しいフランス語で歌い続けた。「帰り来ぬ青春」しみじみと哀歎が漂い、場内はし



んと静まり返る。

「昨日までの私はまだ若かった 日々はいつも蜜のように甘く香り

舌の上で 溶けていった夕暮れの風に遊ぶ 炎のように さまよいながら 壊れやすい 愛の夢を抱いて眠るその日暮らし

(中略)

ゲームのように日々を遊び果たし 今は友も愛もなくし死にそびれた私だけが一人生きてい

この胸に今流れる苦い涙二度と帰らぬ 若い頃の報いを受ける日が来た」ラストは「ラ・ボエーム。白いハンカチをリラの花に見立てた演出も相まって、前の席の外人が声を張り上げる。

ここで我が娘「たいへん、あの人、ファックって言ってるよ！」「：フランス語でマニユフィック、素晴らしいって言ってるんだよ」総立ちアンコールに紛れ親子は早々に立ち去つたのでした。

わくわく楽しみです

ペコのひとりごと

私が生まれてから十九年こんな積雪がなく、暖かかった冬は初めてでしたが、雪国に住んでいる者にとつては手放して喜んでばかりはいられないようです。

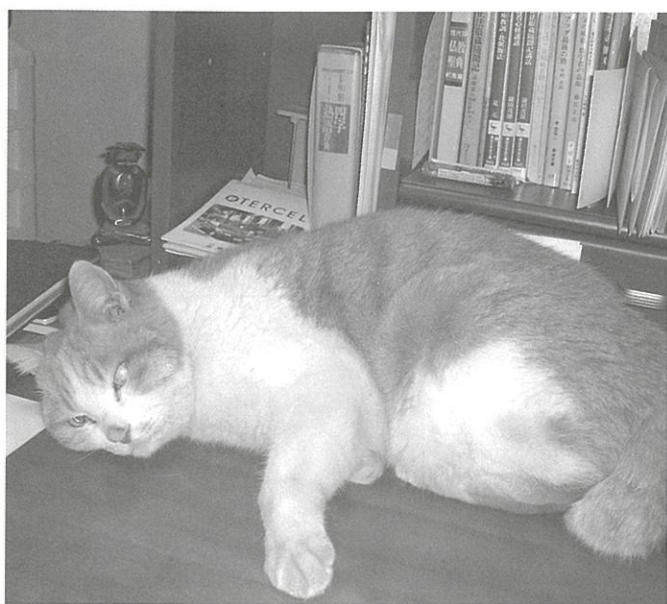
私は暖かい日差しに誘われて時々外に出て、ゴロゴロしていられるので嬉しい

ばかりですが、お寺に訪ねてこられるお客様の話を聞いていると思ってもみなかつた仕事の人まで、「雪がないと商売になりません！」とばかりいわれます。

でも雪が積もっていないと、雪の下から少し顔を出した路の臺に感激し、庭の隅に

残っている残雪を愛しく思い、春を待ちわびるわくわくとした気持ちがない、やはり雪が少しづつ解けてくるような、雪国に住む者しか感じられない嬉しさが今春は感じる事ができませんでした。

でも、違った意味でわくわくとして待ちわびていることがあります。お兄ちゃんが帰ってくるまであと、二ヶ月になりました。大学に入学した年から数えて十年も長岡を離れて生活してしまいましたので、私にはわかりませんが、お母さんにとってみると複雑な心境のようです。



お寺では相変わらず、「サクラ」と「ボブ」の戦いが続いています。でも、最近の二匹の様子を見ていると、気になりつつもお互いに姿が見えないと探していたり、わざと片方が食事をしてる処に現れて邪魔をした

り。先日もお天気が良かったのでお母さんが部屋の窓を開け放して外の空気を入れていましたら、サクラがいきなり部屋中をぐるぐると回りながら外に向かっていたたましく吠えているではありませんか。何事かと思つたら、外からボブが網戸の真ん中にへばりついていのです。ボブも網戸によじ登って見たものの爪が網戸から抜けず、サクラに吠えられても「私だつてどうして良いのかわからない：助けて！」と叫びたい様子。同じ猫ですが、私には理解に苦しむ状況です。

今年も就職も還暦、小学校の懐かしい仲間とのクラス会の打ち合わせも楽しそうです。

編集 少雪、いや無雪、そんな事どちらでも良いのです。今年の冬は今までに経験したこのない暖冬で、そのうちにまとまって降るのでは？ などと話をしていたが、この文を書いている二月末日に雪は東山に少し見えるくらいで、周りにはまったく見えな。早いところでは、もう庭の雪囲いを取り外している。うなると、何となく雪が恋しくなってくるような不思議な心境になってくる。

こんな異常気象も最近特に言われている地球温暖化の影響が強く、今までに考えられていた以上の速さで温暖化が進んでいるようです。私も昨年の九月十五日発刊、第三五号の編集雑感の中で地球温暖化のことを書

きました。特に二酸化炭素排出量を削減することで少しでも温暖化は防げます。多くの国々や、色々な企業でも前向きにこの問題と取り組んでいます。また、各自治体も予算を付け、二酸化炭素の排出量削減を目指して動き始めました。私たちも多くの仲間や企業と協力し合い、二酸化炭素排出量の削減を目指し、新しい製法で取り組んでいるところです。

それにはやはり、前にも書きましたが、廃食油がどうしても必要になります。この廃食油は精製して主にディーゼルエンジン（トラックなど）の燃料として使用します。軽油の代わりです。その他、エンジンに向かない廃食油については、灯油の代わりとしてボイラーなどの燃料として使用します。

今、なせ石油類に代わる燃料を求めているのか、また、いかに使用を少なくするのか、それは二酸化炭素の排出量削減に欠かせないものだからです。ぜひ皆さんも一緒になって考えていきましょう。

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

小林善秋

第三十八号、夏号は平成十九年七月八日(日) 発刊予定です。